

2015. 11. 25

★★★ 日本プロテオーム学会 学会通信第 218 号 ★★★

**BMB2015 ワークショップ企画 (12 月 1 日)に関するご連絡**

日本プロテオーム学会 会員の皆様

平素は日本プロテオーム学会 (JPrOS/JHUP0) にご理解、ご協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、本日は、12 月 1 日 (火) より始まります BMB2015 (第 38 回日本分子生物学会年会、第 88 回日本生化学会大会 合同大会) についてご連絡いたします。

下記の通り、JPrOS の学術企画委員の梶先生、植田先生を中心に、ワークショップ「プロテオミクス なう & beyond」を提案し、採択されました。

開催日時は初日の午前中ではございますが、BMB2015 に参加の皆様、是非ご参加ください。

また、本メールにこのワークショップのポスターを添付いたします。皆様の周りの BMB 参加者に周知いただきますようお願いいたします。

日本プロテオーム学会事務局

記

セッション名： BMB2015 (第 38 回日本分子生物学会年会、第 88 回日本生化学会大会 合同大会) ワークショップ

<http://www.aeplan.co.jp/bmb2015/prowork2.html>

日時： 12 月 1 日 (火曜) 9 : 00-11 : 30

場所：神戸国際会議場 5F 501 会議室 (第 19 会場)

セッション番号： 1W19

テーマ名：プロテオミクス なう & beyond

オーガナイザー：梶 裕之 (産業技術総合研究所) / 植田 幸嗣 (東京大学)

概要：

プロテオームという造語が提案されて、今年で20年になる。ゲノム情報に基づいて発現されるタンパク質の総体をプロテオームと呼ぶが、当初は100タンパク質を同定するのも大変な時間と労力を要した。分離技術や質量分析装置の進歩によって、いまや一度の分析で1万種のタンパク質同定や、大規模な定量分析も可能になった。さらに分析の微量化も進み、1細胞での分析が、その視野に入ろうとしている。この20年の時を経て、花開いた現在のプロテオーム解析技術は、今、生物の何を明らかにしようとしているのか、最新の技術とその先に見える展望を紹介していただく。

講演者（発表順）タイトル

1W19-1 【9:01】 荒木(佐藤) 令江, 南部(新堀) 晶子, シルシリバニト アチト, 小林大樹 (熊本大学大学院生命科学研究部腫瘍医学分野)

プロテオミクスを基盤とした統合オミクスによるがん組織細胞の異常シグナルネットワークの抽出と検証

1W19-2 【9:26】 大槻 純男, 平山 未央, 伊藤 慎悟 (熊本大・院生命・微生物)  
抗体に依存しない質量分析を利用したタンパク質定量

1W19-3 【9:51】 植田 幸嗣 (がん研・ゲノムセンター・プロテオミクス解析 Gr)  
エクソソームタンパク質の質的量的変動解析によるがんリキッドバイオプシー診断法の開発

1W19-4 【10:16】 石濱 泰 (京大・院薬)  
ヒトプロテオーム・リン酸化プロテオーム完全解析への挑戦

1W19-5 【10:41】 大出 晃士 1.2, 上田 泰己 1.2 (1 東大・院医・システムズ薬理, 2 理研・生命システム研究センター)

The post-translational landscape of mammalian circadian clock: an MS-based analysis of CRY1 and beyond

1W19-6 【11:06】 梶 裕之, 富岡 あづさ, 野呂 絵里花, 鹿内 俊秀, 成松 久 (産総研・創薬基盤・糖鎖技術)

糖鎖付加部位ごとのグライコーム分析法の開発と大規模分析への応用 )

以上